

「宗祖に出会う」

去る5月に本山の宗祖親鸞聖人七百五十回御遠忌法要に参加し、聖人様の比叡山根本中堂へ参拝し、ホテルで一泊した夜のことでした。

布団へ入ってもなかなか寝付かれず、頭の中は冴えてお寺の事や御遠忌法要の事などが次々と思い出されてきました。成る様にしか成らないとわかっていても、何で、どうして、ああすればこうすればとの思いがグルグル巡り、時計を見ると3時を過ぎていました。今日は親鸞聖人の御遠忌法要にお参り出来るワクワクしていました。でも、御遠忌法要の基本理念である「宗祖としての親鸞聖人に出会う」という言葉がいつもどこかで気になっていました。私は本当に宗祖に出遇えているのだろうか。真宗聖典や本の言葉、法座のお話に肯き出遇ったつもりになっていただけではないか。外は薄ら明るくなっていましたが、私の心はどんより雲がかかっていた。

所詮私の思いでしかないんだから、ナンマンダブツ、ナンマンダブツと小声で念仏申していましたら、フッと「煩惱具足の凡夫、火宅無常の世界は、よろずのこと、みなもって、そらごとたわごと、まことあることなきに、ただ念仏のみぞまことにておわします」と口について出てきました。すると心がスーと軽くなり、目の前が明るくなりました。「親鸞におきては、ただ念仏して、弥陀にたすけられまいらすべしと、よきひとのおおせをかぶりて、信ずるほかに別の子細なきなり」と『歎異抄』のお言葉が次々として出てきました。「念仏申すしかない」と親鸞さまが言ってくださった。日々の暮らしに追われ、口から出る言葉は棘だらけ、頭の角は折れてもすぐ出てきます。でもこんな私に親鸞さまはいつも寄り添っていてくださいます。

南無阿弥陀仏